

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/04/11

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	36.65	0.31
JPY/THB	0.2394	0.0001
USD/JPY	153.16	1.40
EUR/THB	39.38	-0.04
EUR/USD	1.0743	-0.0114
USD/CNH	7.262	0.024
SGD/THB	27.07	0.06
AUD/THB	23.87	-0.21
USD/INR	83.19	-0.12
USD Index	105.25	1.10

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.389	0.070
10Y (THB)	2.663	0.041
5Y (USD)	4.604	0.231
10Y (USD)	4.544	0.182

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,329.6	-13.9
WTI (Oil)	86.21	0.98
Copper	9,374.0	-43.5

Stock

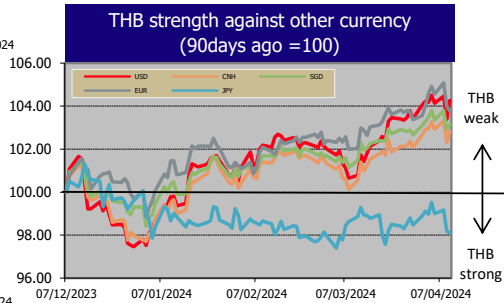
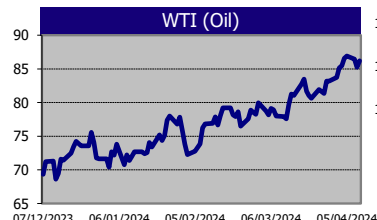
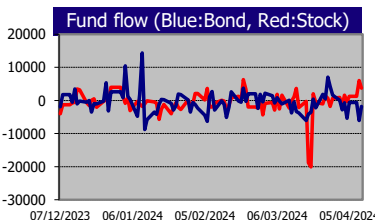
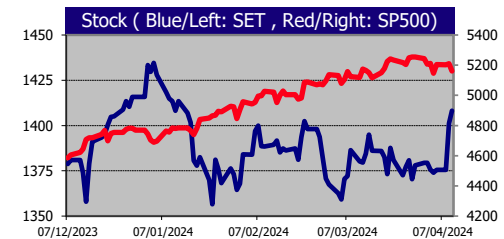
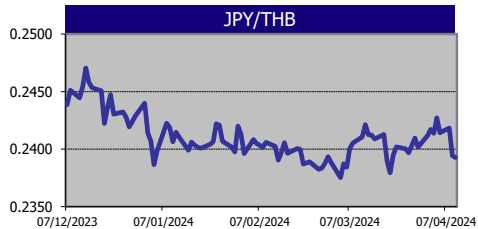
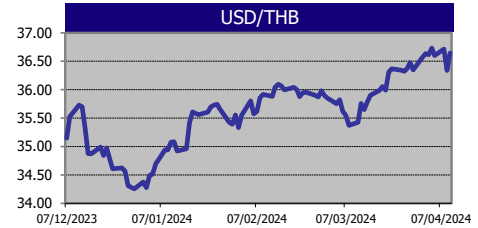
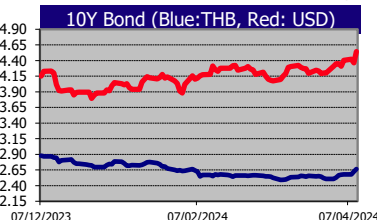
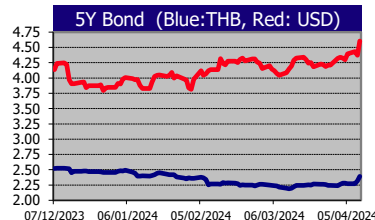
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,408.17	7.06
NIKKEI (JP)	39,581.81	-191.32
DOW (US)	38,461.51	-422.16
S&P500 (US)	5,160.64	-49.27
SHCOMP (CN)	3,027.34	-21.20
DAX(GER)	18,097.30	20.61

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	3,696	-2341.6
Bond net flow	(1,776)	4290.9

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

・昨日のドルパーツは上昇。36パーツ台前半で取引を開始。タイ中銀(BOT)による金融政策委員会(MPC)に対する警戒感高まる中、バンコク時間14時に政策金利の据え置きが発表された。同時に発表された声明文では「構造的な要因を解決するには金融政策の効果は限定的」と従来のスタンスを維持。また、その後BOT当局者より「(首相と我々の間では)金融政策を決定する際に重きを置いている要因が異なっているのではないか」との発言も確認され、BOTと政府のスタンスの違いが改めて意識付けられることとなった。ただ、パーツ相場は発表直後こそ上下するも、水準を変えるには至らず。海外時間に入り、米3月CPIが市場予想を上回る結果となったことが確認されると、米利下げ時期の後ずれ観測が強まり、ドル買い優勢の地合いに。ドルパーツは36パーツ台後半まで急騰し、終盤にかけても同水準を維持しながら36.65レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・昨日のドル円は上昇。151円台後半で取引を開始すると、海外時間に発表が予定されている米3月CPIを控え、方向感に欠ける値動きが継続。海外時間に入り、注目の米3月CPIは総合・コアともに前月比及び前年比で市場予想を上回る結果であることが確認され、米金利上昇・ドル買いで反応。ドル円は節目とされていた152円を突破し、152円台後半まで急騰。終盤にはFOMC議事録(3月19-20日開催分)が公表され、「出席者は総じて、物価が目標に向かって縮小していると確信が高まったとは言えないと表明」との文言が確認され、メンバーの慎重姿勢が示される中で、ドル円は一段の上昇を見せ、153円を突破。そのまま153.16レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

昨日のMPCでタイ中銀は政策金利の据え置きを決定した。今回は利下げを予想する向きもあったが、蓋を開けてみれば票割れは前回と変わらず5:2、経済見通しやインフレ認識も前回から大きく変わった節は見られなかった。声明文からも将来の利下げに向けた地ならしは特段読み取れなかったことから当面パーツの下値は限定的となりそう。金利差が意識され通貨安に歯止めがかからない円を見ていれば、こと自国通貨安を警戒するアジア諸国にとっては米国の金融政策の転換を見極めないと利下げには踏み切れないのかもしれない。その米金融政策の行方を占う上で注目された昨日の米3月CPIは、市場予想を上回る強い伸びとなり、米国の利下げ観測を益々後退させる結果となった。アジア諸国としては悩ましい金融環境の継続であり、円相場は34年ぶりの安値を更新するなど日本政府や日銀にとっても断る許さない状況が続く。かかるなか、本日は欧州で政策決定会合が開催される。金利据え置きが予想される今回はラガルド総裁の会見が注目されており、現状6月とされる初回利下げ時期に関する言及の有無がポイントとなりそう。ドル円は152円が介入ラインではなかったことが判明したが、口先介入の効果を見失わないためにも実際に発動させる必要があることは日本当局もわかっているはずだ。本日の欧州イベントはその引き金となるか。引き続き円相場から目が離せない展開が続く。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.